

平成25年度第3回「知事と一緒に生き活きトーク」の議事概要

- 1 テーマ：岡山県経済の未来を考える
- 2 日時：平成25年7月11日(木)14:00～16:00
- 3 場所：岡山市三光荘
- 4 参加者：岡山県経済青年部連絡協議会役員等 9名
- 5 意見内容等：

(1) 中小・小規模政策について

○意見・要望

- ・旅館業を営んでいるが、魅力的な個性のある施設を造ろうとしても、排水基準、警察法、消防法などでは岡山県が全国的に一番厳しく基準の運用をされており、制約が非常に厳しい。安全面は確保しつつ、法令は遵守しながら、緩やかに使えるような規制緩和をしてほしい。
- ・大都市と地方、都市部と中山間地域では市場規模、地域特性等大きく異なり、一律の政策では地域間格差は拡大すると懸念している。地域需要創造型の政策等は財源と共に地方へ移管し、各県の独自性を活かしたきめ細やかな政策・制度とすることで、地方経済の活性化につながると考えている。例えば、創業後5年程度経過した企業のステップアップ支援、経営革新認定後のフォローアップ、次の段階へのランクアップ支援制度など、国の施策を相互補完する様な施策を行うことでシナジー効果が発揮され、地域のやる気のある中小・小規模企業が成長が図れると思っている。
- ・若者には、仕事のやり方は勿論のこと、社会人としての人とのコミュニケーション能力等、教えていかなければならない。しかし、教育機関では資格取得、技術の向上を目的としていても、自己判断能力やコミュニケーション能力の向上の取り組みはされていないと感じている。そこで、知事にはそれぞれの業種の人間が学校等で話す機会の提供、教育指導者と業界関係者との交流の機会など、若者の職業意識を高めるため教育の現場と産業を結びつける架け橋になっていただきたい。

○知事の意見

- ・岡山県の環境基準は歴史的な経緯があって厳しいものがあるが、必要以上に厳しいものは実態にあわせていかなければならないと考えている。
- ・独自性を活かしたきめ細やかな政策・制度を導入することは大賛成だ。国の下請では全く意味がない。ぜひ、岡山の強みを活かして弱みはカバーできるようなことを独自でやっていきたいし、もっと、権限、財源は国からいただきたい。
- ・大企業というのはある意味バランスが取れている。弱い所に人をはりつけて、専門家を呼んだりしてそんな極端な弱みはない。小さい会社になればなるほど、特定の強みで道を切り開いている会社が多い。逆に、弱いところがありながら今でも頑張っている所は、その弱いところを普通のレベルにしてあげるとぐっと伸びたりする。何かよい形、どういう形だとよいのかを教えていただきたいし、分野も多岐にわたるが、ご提案いただければと思う。

(2) 支援機関の取り組みと今後の課題

○意見・要望

- ・岡山には商工会議所、商工会、中央会等、さまざまな支援機関がある。その中で、足りない部分もたくさんあると思われるが、県から指導したり、足りない部分を支援してもらって、ちいさな企業は成長していくと考えている。岡山の強みを活かした産業の環境づくりをしてほしい。
- ・中山間地域では、青年部員減少、商売人の減少の歯止めがつかない状態である。この地域を守るのは我々青年部であり、我々が地域の活性化に中心的に取り組み、そこに住む子どもたちを支えていくのが役割だ。県との強化体制、支援機関の取組の仕方について、お互いに協議をし合って、切磋琢磨して、岡山県の発展の為に、我々青年経済人と企業を支えていただきたい。
- ・女性対象の創業塾があるように、女性対象のリーダー塾があってもよい。ビジ

ネス社会に一步前に踏み出す勇気と、ビジネス社会で生きていく上で、知恵を授けていただくことを目的としたリーダー養成塾を作ってほしい。

○知事の意見

- ・岡山の強みは、多種多様な会社があること。一つ一つは大企業ではないが、中堅企業が色々あるおかげで、経済情勢に変化があっても、全ての企業が一律に影響を受けることはない。ここがすごくいいところだ。どういう業種で会社をつくっても、何かしら教えてもらったり、一緒に働く会社があるというのも強みだ。そういう強みを是非活かしていきたい。
- ・10年後、20年後は、人口密度においても、高齢化においても、大きい町が岡山の郡部に非常に似た状態になる。今、大阪とか東京の状態に最適化してるような会社は、自分たちの不得意なところにあわせる必要性に迫られる。岡山の地方都市でひとつのモデルができれば、それに似た環境で、日本中に広がっていく。環境変化は止められない。それをうまく自分の有利な方に使うしたたかさを持っていきたい。足りないところは是非応援をさせていただきたい。
- ・社会で、若しくは産業界でその女性の能力をどれだけ使ってるかというところ、かなり限定的にしか使われてない。しっかり活用するべきであり、本人の幸せのことを考えてもその方がよい。ぜひ、女性塾を作ったらよいと思う。

(3) 中小・小規模企業の発展・地域貢献に向けた課題

○意見・要望

- ・我々の業界は大企業が市場シェアの大半を占めており、生き残っていくためには、本来の事業に加え新しい取組や新たな市場への進出を行っていかねばならない。小規模事業者にとって海外の市場に進出しようとするのは容易ではない。資金面や人員面、情報面等において、大変不足している。そこで、新分野進出の際の専門家のアドバイスや海外展開の挑戦する際に、一定期間の展示販売施設を県で借り上げることができれば、各社の競争力につながり、ひいては岡山県の活性化に寄与できる。
- ・中山間地域では人々が利便性を求めて都市部へ移り住むなど人口減少に伴い、小売業や飲食業などビジネスとして存続するのが困難な業種が発生している。中小・小規模企業の支援施策を立案する際に、中山間地域など、不利益地域には地域への貢献度を考慮してほしい。自助、自立の精神で、地域の雇用の受け皿となるとともに、地域密着型の商品やサービスを機動的に提供することで、地域社会の富や持続可能性を生み出す。不利益な地域で戦っている経営者の気持ちを理解して、少しだけ後押しをしてほしい。
- ・岡山県の高齢化比率は全国平均よりも約5%程高く、岡山市・倉敷市を除く中山間地域では30%を超えている。平成30年代では、岡山県の人口が約10万人減少するといわれている。このような中で、中山間地域の中小・小規模事業者は自らの企業の経営と消防団などの防災活動、地域のコミュニティを担う役割も果たしている。業種転換や廃業を考えなければいけないところだが、地域の強い存続要望もあり、なんとしても続けていかねばならないと覚悟しているところだ。今後は、農林業そして観光産業といった新分野に不利益な中山間地域ならではの環境を強みにして、経営の改革に取り組んでいきたい。

○知事の意見

- ・小さい会社や地域の会社であっても海外に打って出るときに、ぜひここは何とかしてほしいということは十分理解できる。そこは県が得意な分野だと思っている。一社ではできないことでも県ならばできるし、そうやって販路が広がっていくというのは本当に素晴らしいことだ。
- ・中小・小規模企業の支援施策については、より効果的で波及効果のある支援策を模索中。皆さま方から知恵をいただいてより効果がある方法にしたい。
- ・中山間地域ではビジネスは厳しい。理想主義的にやると会社が潰れてしまい、かえって大きな迷惑を地域にかけることになり、また、自分を守るために計算だけでやると地域貢献にならない。そのところをよく考えてもらいたい。